

安心できる場をつくる

東郷アレルギーの会

みなさんは、「食べる」ことに不安を感じたことはありませんか？

食物アレルギーを持つ人は、危険と隣り合わせの食生活を工夫しています。

今回は、アレルギーのあるお子さんを持つ、「東郷アレルギーの会（以下、会）」代表の加藤さんと、会員の清水さんにお話を伺いました。

会の活動

会では、アレルギーのあるお子さんを持つ親などが集まり、2カ月に1回、交流会を開くなどの活動を行っています。

元々は町、日進市、長久手市と一緒に活動していたところ、自治体によってアレルギーへの対応や取り組みに違いがあったため、それぞれの自治体に合った活動をしたいという思いから会を設立しました。

町では、小中学校の給食について給食センターでアレルギー食材は別添えで提供するなどの対応をしています。「今はみんなと一緒に食べられるものが増えて嬉しい」と清水さん。また、「アレルギーの詳細な献立表も成分がわかりやすい表示に変わり、安心できます」と笑顔で話します。

町総合防災訓練では、アレルギー対応食の紹介で「アレルギーがあるために、災害時に非常食が食べられないと困ってしまいます。ちょっとした配慮で一緒に食べられる子が増えます」と話し、自助としての備蓄品の必要性と併せて啓発しました。

会に参加して安心できた

加藤さんは、お子さんが8カ月のとき病院で食事をしたときに症状が出て、アレルギーであることがわかりました。「対応の方法がわからず不安でした」と当時を振り返ります。

その後、加藤さんは日進で活動していたアレルギーの会を知り、参加。「日進の会に参加して、心が安らぎました。同じ境遇の人の不安を和らげたいと思い、アレルギー支援ネットワークの支援を受けて、会の立ち上

げに参加しました」と加藤さんは微笑みます。



左から清水さん、加藤さん

顔の見える関係を作る

加藤さんは「会を通して、アレルギーに関する情報を共有したいですね。不安な気持ちや分からないことも共有して、安心してほしいです」と話します。

「情報はインターネットでも得られますが、間違いや古い情報もあります。正しい情報を得て不安を取り除くためにも、会で実際に会って、顔の見える関係を作りたいです」と清水さんは話します。会は、人と人を繋げる安らぎの場です。

会では、会員を募集しています。食物アレルギーや喘息などのアレルギーでお悩みの人、アレルギーに関心のある人もお待ちしています。次の交流会は3月12日。皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。東郷アレルギーの会：togoaller.net@gmail.com

そだ 育っています!

No. 433

朱里ちゃん、二人の子どもに産まれてくれてありがとうございます。日に日に成長していく姿に驚いています。表情も豊かになり、朱里ちゃんの笑顔に毎日元気ももらっています。その笑顔を絶やさないように父と母はずっと朱里ちゃんを見守っています。彩のある元気な子に育ってね!



あかり 朱里ちゃん (7カ月)

増田 哲也さん・衣里さんの
長女（兵庫）